

FOREX WEEKLY REPORT

2019年12月30日

I. 先週の動き

先週のドル円チャート



		12/23(月)	12/24(火)	12/25(水)	12/26(木)	12/27(金)	週間
ドル円	高値	109.54	109.45	109.45	109.68	109.61	109.68
	安値	109.34	109.33	109.30	109.37	109.40	109.30
ユーロ円	高値	121.35	121.36	121.35	121.80	122.50	122.50
	安値	121.09	121.07	121.25	121.30	121.62	121.07
ユーロドル	高値	1.1096	1.1094	1.1106	1.1109	1.1188	1.1188
	安値	1.1070	1.1070	1.1073	1.1083	1.1095	1.1070

◆先週の動き

【12/23】ドル円はほぼ横ばいで、1日を通して値幅は僅か20銭だった。朝方に一時109.54(高値)をつけたものの、その後は終始109.40付近で膠着して引けた。米11月耐久財受注(実績:-2.0%/予想:1.5%)や米11月新築住宅販売件数(実績:71.9万件/予想:73.2万件)等の米経済指標が低調な結果を受けて109.34(安値)をつけたが、下落幅も限定的であった。

ユーロドルは小幅上昇。東京時間は1.1080を挟んで小動き。海外時間は、合意なきEU離脱懸念が再燃していることを背景とした債券売りの下落に連れ1.1070(安値)をつけたが、上述の低調な米経済指標を受けるとやや強含み1.1096(高値)まで上昇して引けた。

【12/24】ドル円はほぼ横ばいで、1日を通して値幅は僅か12銭だった。海外を中心にクリスマス休暇に入っており薄商いであったが、109.40を挟んで小動きに終始した。米12月リッチモンド連銀製造業指数(実績:-5/予想:1)が予想を下回ったことで109.33(安値)をつけたものの下落幅は限定的であった。

ユーロドルは横ばい。東京時間は1.1090を挟んで小動き。海外時間は、欧州勢参入後にユーロ売り地合いとなり1.1070(安値)をつけたものの、その後はすぐに持ち直して1.1080-90付近を方向感無く推移した。

【12/25】ドル円はほぼ横ばい。東京時間は109.40付近を方向感無く小動きで推移。海外時間は、クリスマス休暇でほぼ全ての市場が休場となっており流動性はほとんど無く小動きに終始。クリスマス明けもオセアニア市場は休場となっているが、引き続き109.40付近で推移している。

ユーロドルはほぼ横ばい。1.1080-90付近で揉み合いとなる中、一時1.1073(安値)をつけた。海外時間は、クリスマスにより一段と閑散取引となる中、海外時間に1.1106(高値)をつけた。今朝は1.1090近辺で推移している。

【12/26】ドル円は小幅上昇。東京時間は堅調な日経平均株価を背景に仲値公示にかけて109.50円台まで上昇すると、その後は109.50-60の間で膠着状態となった。海外時間は、堅調な日経平均先物に加え、NY時間に中国商務省報道官による「両国が現在も署名前に必要な手続きを進めており、両国は密接に連携している」との発言を受け米中貿易摩擦緩和への期待が高まったことから、米国株が史上最高値を更新。一時109.68(高値)まで上昇したが、その後は伸び悩み109.65で引けた。同日は、欧州勢の大半が祝日(ボクシングデー)の為、流動性は低く動意の欠ける展開であった。

ユーロドルはほぼ横ばい。東京時間から海外時間にかけて1.1090を挟んで小動き。NY勢参入後に、豪ドル等の資源国通貨が上昇したことで連れ高となり一時1.1109(高値)まで上昇した。

【12/27】ドル円は小幅に下落。早朝に109.61(高値)を付けた後、材料がない中109.50を挟んでの小動きに終始。NY時間109.59まで上昇する場面があったがすぐに失速し109.40(安値)まで下落した。

ユーロドルは上昇。早朝に1.1095(安値)を付けた後、東京時間はじり高で推移。欧州勢参入後は欧州株の上昇基調を背景にユーロ買い・ドル売りが継続、NY時間に1.1188(高値)まで上昇した。



Ⅱ. 来年の予想

通貨	来年予想		コメント
	安値	高値	
ドル/円	106.00	112.00	レンジ
ユーロ/円	115.00	125.00	ややベア
ユーロ/ドル	1.0500	1.1500	ややベア

◆ 来年の予想

今年は“米中”というワードを果たして何回聞いただろう。今年8月1日にトランプ大統領が、“9月1日に3,000億ドル分の中国製品に対する追加関税を発動する方針”を表明したことで米中問題が再浮上し、マーケット全体でリスクオフムードが再燃した。その後ドル円は一時104円台半ばまでドル安円高が進んだ。とはいえ、2019年は年単位で見ると例年より上下動が少なく、特に後半は104円～110円という極めて狭い値幅に留まった。年単位の値幅は年々狭まっており、来年も小幅な値動きを想定し106～112円と考えている。2020/1～2020/6にかけては米国政策金利据え置き観測や、2019年後半のFEDによるFF金利誘導目標の計75bp引き下げが米国経済の減速を緩やかなものに留めるとの公算がドルを下支えし、底堅い推移が想定される。一方で明確な物価上昇見通しが立たない中利上げは想定しづらく、米長期金利も2%近辺での推移が続くと見られ、米国金融政策の現状維持を前提に、2019年後半のレンジをベースに107円～112円の極めて狭いレンジで推移するものと見ている。米国ISM製造業/非製造業景況指数の最新データでは、9月以降製造業が50を下回っていること、一方で米国の戦後最長の景気回復局面がいよいよ終盤を迎え景気後退を迎えつつある中、足元の発動済み対中関税は米国景気減速への追い打ちとなるのではないかと。よって2020/7～2020/12にかけて米国景気減速が各指標と共に鮮明となれば、利下げ観測が再浮上し、2020年年末にかけてドルへの下押し圧力がかかるだろう。最低値は106円付近と見ている。

◀ 米国大統領選挙 ▶

2020年11月には米国大統領選挙を控えている。よってトランプ大統領は米国景気にネガティブな影響を与えるような政策は手控えるものと見られ、米中関係は小康状態が継続することが想定される。これも来年年にかけて極端な値動きがないことへの裏付けとなる。実際、米中協議の部分的合意がなされたことで、12月15日発動予定であった対中関税引き上げは無期限延期、そのほか9月に引き上げられた関税についても引き下げが実施される。尚、米国大統領選挙はトランプ大統領(共和党)の再選が基本路線であるものの、当選後はより保護主義政策を全面に打ち出し、対中強硬姿勢が強化されれば、再びリスクオフムードが高まるリスクはある。また、民主党が当選した際にも、大型減税の撤廃や金融規制強化等により米経済の先行き減速懸念から、株式市場が下振れるリスクはあるだろう。

◀ 米国雇用 ▶

米国雇用環境についても考察しておく。非農業部門雇用者数は10月に起こったGMでのストライキという特殊要因はあったものの、最新データでは7月の水準まで回復している。また、失業率は史上最低水準を推移、賃金も微増であるもののプラス圏を推移していることから、2020年年にかけて同様の推移が継続すると見ている。

◀ 2020年の日本 ▶

日本では、米中問題をはじめとした海外ファクターが大きく影響する年になるだろう。国内ファクターに焦点を当ててみると、2019年10月から導入された消費税10%は個人消費を減退させる要因であるが、政府によるキャッシュレス決済のポイント還元政策(2020年6月期限)や10兆円の景気対策、東京五輪による特需が、足元の景気減速懸念を緩やかにするものとみている。上記シナリオは日銀の金融政策が現状維持で推移することが前提であるものの、米国大統領選挙後に保護主義が台頭しリスクオフムードが高まり、またFRBへの利下げ圧力が強まれば、年後半にかけてはドル安円高に推移することも想定される。その場合は追加的な政策がとられることが想定される。

◀ 2020年のユーロ圏 ▶

ユーロ圏では、2019年11月にラガルドECB新総裁が誕生したが、その政策方針はハト派色が強いとの見方が有力である。2019年9月には政策金利が0.4%から0.5%に引き下げられ、量的緩和も再開されたが、ラガルド氏は「ECBはマイナス金利の副作用は非常に強く認識している」(12月12日)、「ポリシーミックス(いくつかの政策を組み合わせることで同時期に実施すること)が欧州には必要」(11月22日)とも発言しており、マイナス金利が今以上に深掘りされる可能性は低いと考えるのが妥当だろう。牽引役のドイツ経済は中国経済の鈍化と共に減速が続いているが、ドイツを含むユーロ圏各国の財政支出拡大と共に、年後半にかけては景気持ち直しが期待できる。



Ⅲ. 経済指標カレンダー

日付	時間	国	月	経済指標、要人発言
1月1日				東京、米国、欧州、中国、香港市場休場 日米貿易協定、日米デジタル貿易協定が発効 中国、豚肉や一部ハイテク部品などの輸入関税引き下げ開始
1月2日	10:45	中	12月	Caixin中国製造業PMI
	17:55	独	12月 確報値	マーケット/BMETドイツ製造業PMI
	18:00	欧	12月 確報値	マーケット ユーロ圏製造業PMI
	18:30	英	12月 確報値	マーケット英国製造業PMI(季調済)
	22:30	米		新規失業保険申請件数
	23:45	米	12月 確報値	マーケット米国製造業PMI
1月3日	17:55	独	12月	失業者数(千人単位)
	18:30	英	12月	マーケット/CIPS英国建設業PMI
	22:00	独	12月 速報値	消費者物価指数(前月比)
	0:00	米	11月	建設支出(前月比)
	0:00	米	12月	ISM製造業景況指数
	1:05	米		バーキン・リッチモンド連銀総裁、発言
	3:15	米		ブレイナードFRB理事、デリー・サンフランシスコ連銀総裁、エバンス・シカゴ連銀総裁、発言
	4:00	米		FOMC議事要旨(12月10、11日開催分)
	5:30	米		カプラン・ダラス連銀総裁、発言
1月6日	17:55	独	12月 確報値	サービス業/コンポジットPMI
	18:00	欧	12月 確報値	サービス業/コンポジットPMI
1月7日	19:00	欧	12月 速報値	消費者物価指数(前月比)
	22:30	米	11月	貿易収支
	0:00	米	12月	ISM非製造業指数
	0:00	米	11月	製造業受注(前月比)
	0:00	米	11月 確報値	耐久財受注(前月比)
1月8日	16:00	独	11月	製造業受注(前月比)
	19:00	欧	12月 確報値	消費者信頼感
	21:00	米		MBA住宅ローン申請指数
	22:15	米	12月	ADP雇用統計
1月9日	9:30	豪	11月	貿易収支
	10:30	中	12月	生産者物価指数(前年比)
	10:30	中	12月	消費者物価指数(前年比)
	16:00	独	11月	鉱工業生産(季調済/前月比)
	22:00	米		クラリダFRB副議長、発言
	22:30	米		新規失業保険申請件数
	1:30	米		ウィリアムズ・NY連銀総裁、発言
	4:00	米		ブラード・セントルイス連銀総裁、発言
1月10日	9:30	豪	11月	小売売上高(前月比)
	18:30	英	11月	鉱工業生産(前月比)
	18:30	英	11月	製造業生産(前月比)
	22:30	米	12月	非農業部門雇用者数変化
	22:30	米	12月	製造業雇用者数変化
	22:30	米	12月	失業率
	22:30	米	12月	平均時給(前月比)
	0:00	米	11月 確報値	卸売在庫(前月比)

- ・この資料の無断での複製、転写、転載、改竄または配布は、禁止されています。
- ・この資料は、情報の提供を唯一の目的としたもので、特定の金融商品取引の投資勧誘・奨励を目的としたものではありません。
- ・金融商品取引を検討される場合には、別途当該金融商品の資料を良くお読みいただき、充分にご理解されたうえで、ご自身の判断と責任においてお取引をなさるようお願いいたします。
- ・金融商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります、また金融商品によっては証拠金や担保をご提供いただく場合があります。なお、具体的な金融商品が定まっていないため、現時点では手数料・証拠金・担保等の額または計算方法およびその比率をお示しすることはできません。
- ・金融商品によっては、金利水準、為替相場、株式相場等の金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により、お客様に損失が生じることがあり、またこの損失がお客様からご提供いただいた証拠金・担保(もしあれば)の額を上回るおそれがあります。
- ・商号等/株式会社新生銀行 登録金融機関/関東財務局長(登金)第10号
加入協会/日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会